

事例報告Ⅱ

～令和3年度 鹿屋体育大学
生涯スポーツ実践センター協力者会議～


NPO法人A-lifeなんかん 事務局長 西田由実

自己紹介

西田 由実 にしだゆみ

■NPO法人A-lifeなんかん 事務局長 2012年(H24).7~

- 南関すこやかスポーツクラブ 副マネジャー 2010年(H22).11~
- 会員になったのがクラブとの最初の出会い 2009年(H21)
- 前職を退職後3年ほど専業で子育てを満喫
- 中学校での運動部活動経験は1年のみ




NPO法人A-lifeなんかんとは

ミッション:

広がる未来 つながる地域

- 1.好循環のスポーツ文化を生む
- 2.住民が協働で仲間と地域を創る
- 3.競技力向上・健康増進を支える

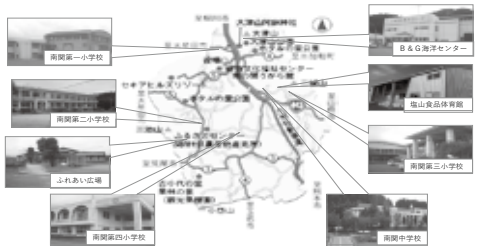


南関町の紹介

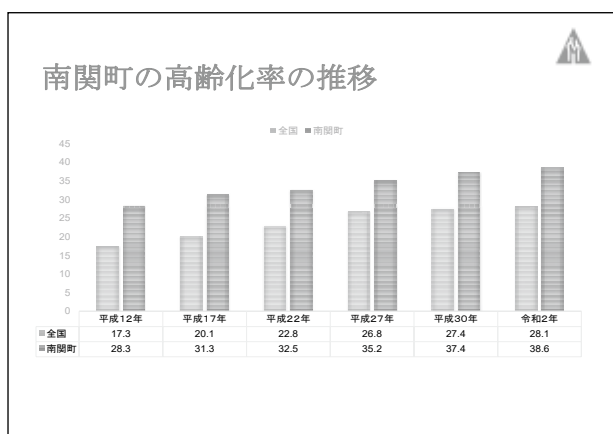
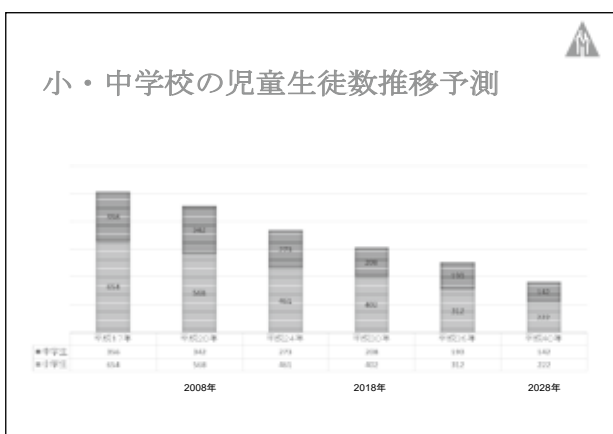
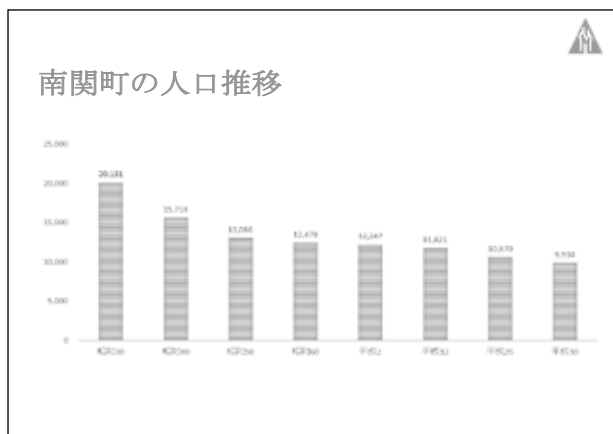



- 隣接する自治体 ※熊本県の最北端
大牟田市・みやま市(福岡県) 和水町・玉名市・荒尾市(熊本県)
- 面積 68.92km² (南北11km、東西10km)
- 行政区90 ■人口 9510人

南関町の学校及び社会体育施設



- 南関第一小学校
- 南関第二小学校
- ふれあい広場
- 南関南白小学校
- 南関中学校
- 南関第三小学校
- B&Gスポーツセンター
- 徳山食品体育館



見えてくる今後の課題～人口推移から

- 超高齢社会
 - ① 医療費の増大 年ごとの増加額、年代ごとの額 生涯スポーツに係る環境 等
 - ② 介護の問題 要支援・要介護者、グレーゾーン、一般者の把握、介護給付費 等
 - ③ 認知症者の増加 認知症者の把握、地域別 等
 - ④ コミュニティーの希薄化 地域数、地域での行事、地域の特性 等
- 少子化社会
 - ① 子供の体力低下 体力測定の結果、肥満児童の把握 等
 - ② 体力の二極化 運動好きと運動嫌いな子供の把握 等
 - ③ 先生の高齢化 体育の授業時のお手本、単元目標の達成率の調査 等

まちの課題は行政だけで解決できる？

クラブの軸と町の課題

キーマンが絶対必要！

2012年 A-lifeなんかん 設立

設立日：平成24年7月25日 *2012

南関町体育協会(S50-)と南関町すこやかスポーツクラブ(H17-)が合併。スポーツ・文化活動を通じて住民の健康・体力の維持増進、地域社会の連携と明るく豊かな生活を実現し、子どもから大人まで競技力向上とトップアスリートの育成を目指すため、より一層しっかりとした基盤をつくり、スポーツにおける好循環を生み出す活動を展開する。

A-lifeなんかんの活動の軸

期待される効果

世代別のアプローチ

2018年度組織構成を改編

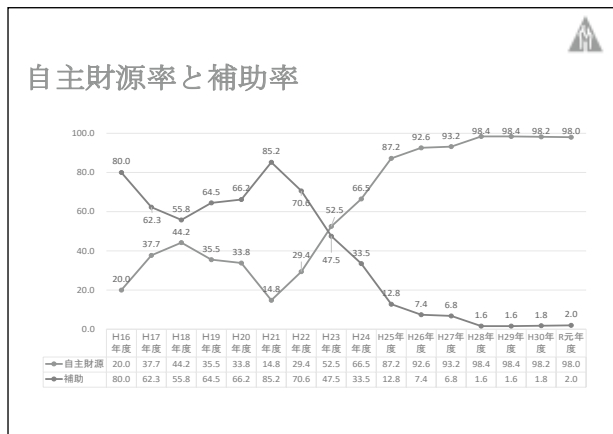
A-life設立時(2012年7月) → 2018年度(2019年1月)改変

役員	2012年7月	2019年1月
① 会長	1名	① 理事長 1名
② 副会長	2名	② 副理事長 3名
③ 理事長	1名	③ 理事 13名(内3名外部)
④ 副理事長	1名	④ 監事 2名
⑤ 理事	6名(内2名外部理事)	⑤ 顧問 1名
⑥ 監事	2名	⑥ 事務局 5名
⑦ 顧問	1名	⑦ 社員 * NPO法上の会員
⑧ 事務局	5名	代表指導者25名程度
⑨ 正会員 成人会員		⑧ 児童クラブスタッフ 16名

2022/2/1現在

A-life事務局スタッフが所有する資格

免許資格の種類	人数	免許資格の種類	人数
防火管理者	1	公認クラブマネジャー	1
安全運転管理者	1	公認アシスタントマネジャー	5
中型自動車免許Ⅱ(8t)	2	マスター-中高老年運動指導士	2
健康運動指導士	1	アソシエイト講師	1
健康運動実践指導者	1	健康経営アドバイザー	1
准看護師	1	SDGs for schoolエデュケーター	1
リンパ整体師	1	放課後児童支援員	1
元気づくりアドバイザー	2	JNWA/経 営アドバイザー	1
社会体育インストラクター	1	スクエアステップ指導員	2
日本体操協会審判認定種別第3種	1	ふまねっとインストラクター	1
中級障がい者スポーツ指導員	1	学習療法士1級	1
初級障がい者スポーツ指導員	1	小学校英語指導者資格	1



2020年度 決算

1. スポーツの振興等に関する事業収益 (会費収入+競技部補助+体育教室)	4,562,960円
2. スポーツ指導者の育成・派遣、情報提供事業収益 (外部への講師派遣+視察受け入れ)	5,651,284円
3. イベント企画運営事業収益	836,114円
4. スポーツ振興受託事業収益(スポーツ庁・教育課)	6,976,998円
5. 施設管理・健康増進や介護予防受託事業収益	23,916,198円
6. 飲食物の製造・提供に関する事業収益 (自動販売機設置・アグリ事業における収入)	383,931円
7. スポーツ用品等の作成・販売事業収益 (Tシャツ等販売、ニュースポーツ用具販売)	888,971円
+ 管理部門ほか	462,068円
合計	43,878,514円

2021年度 予算

1. スポーツクラブ・スクール事業 (会費収入+競技部補助)	5,433,000円
2. 人材育成・派遣事業 (人材育成研修+視察受け入れ)	547,000円
3. イベント事業	230,000円
4. 調査研究連携事業(子ども体力向上推進プロジェクト)	1,742,000円
5. 地域振興協創事業(障害者スポーツ推進プロジェクト)	4,999,000円
6. ヘルスクエア事業	22,496,000円
7. スポーツ等支援事業	6,167,000円
8. 施設運営管理事業	18,792,000円
9. 飲食物の製造販売事業	103,000円

令和2年で法人設立後初めて
事業種類・内容の定款見直しを実施

合計 60,509,000円

行政政策に伴う委託事業など

第5期南関町福祉計画 南関町振興計画まち・ひと・しごと創生総合戦略 第3期南関町スポーツ振興計画

- 健康増進事業(わくわくシェイプアップ) 平成23年度~平成27年度
- 一般介護予防事業(元気づくりシステム、二次予防事業含む) 平成23年度~
+ 通所サービスC 平成30年度~
- 健康増進事業(元気づくりシステム) 平成24年度~
- 国民健康保険(ふるさと総合健診における体組成測定) 平成30年度~
- 児童福祉事業(子どもの貧困対策事業) 平成31年度~令和元年
- 好循環推進プロジェクト 平成26年・平成27年
- 子供体力向上課題対策プロジェクト 平成28年・平成29年
(南関子ども体力向上コンソーシアム設立)
- 小学校英語協力支援員 平成28年~平成30年度
- 学校における体育・スポーツ資質向上等推進事業 平成30年~
- 小学校運動部活動社会体育運動指導事業 平成30年~ ※小学校部活動の社会体育移行
- 障害者スポーツ推進プロジェクト 令和2年~(しょうがいスポーツリンケージくまもと設立)
- 唐辛子栽培事業 平成27年~
◆南関子ども体力向上コンソーシアム、◆南関町スポーツコミュニティ
のしょうがいスポーツリンケージくまもと

自治体が導入しA-lifeが運用 元気づくりシステム



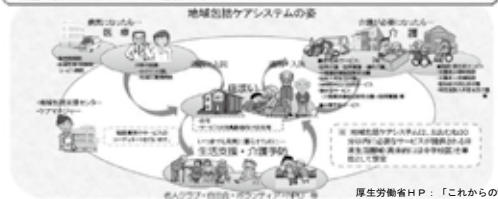
特徴

- 南関町の介護予防事業で導入している「元気づくりシステム」*90分
- 準備運動 *まいいい運動
 - 筋トレ(膝立伏せ・腹筋・スクワット)
 - 球技等レクリエーション
 - 整理運動
 - ストレッチ

元気づくりは介護予防としてスタート

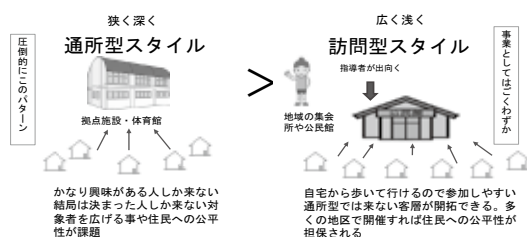
地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても自らの地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要となります。
- 人口が減少し75歳以上人口が増える大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する山村部等、高齢化の進展状況は大きな地域差が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、保健者である医師や看護師等が、地域の自立性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げることが必要です。



厚生労働省HP:「これからの介護予防」

これまでの介護予防のスタイルは?



陥りやすい4つのワナ

平成22年度までの状況

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| ① 民間業者が訪問型運動教室を実施(17箇所) | ① 行政側からの依頼のワナ |
| ② 運動習慣が定着していない(月1回~週1回) | ② ボランティア養成事業のワナ |
| ③ 指導者が指導しないと実施できない状態 | ③ 運動指導者が陥るワナ |
| ④ 楽しみ重視で運動強度が確保できない | ④ 事業の趣旨が伝わらないワナ |

平成22年度まで実施した一次予防事業については、実施場所である集会所の箇所数を増やし、全地域に広げると言う面だけに特化しており、本来あるべき姿からは、かけ離れていた。そのまま事業を継続させていたのなら、実施が困難になる可能性が極めて高いと考えられる。なぜならば、現行のままシステムを運用していくと自立した場合でも地域の自発的な活動を継続していくサポート体制や管理運用していくシステムが無い状況だった。

"元気高齢者"の育成で人と人・人と地域を繋げる

広く深くのスタイルを可能にした「元気づくりシステム」メリット

- 参加者の目的が明確な為、自発的な活動が展開しやすい

- 既存の施設の有効活用が可能。地域資源の価値が高まる。

- 自宅から徒歩圏内での開催

- 地域住民が相互に支え合う運動普及法。高齢者を地域社会に繋ぎ、また繋がりがあえるような居場所づくりの展開。

- ◆元気づくりシステムの特徴
- 1. 過度に介入しない
- 2. 自立・自主自発性を尊重
- 3. 元気リーダーの安心感
- 4. 元気リーダーのやりがい

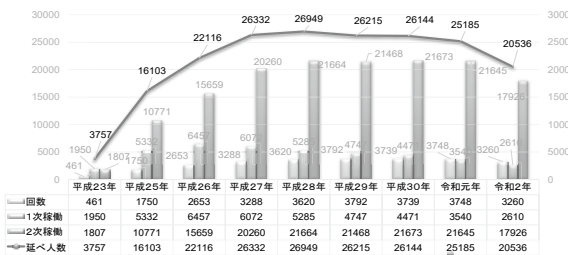
⇒地域の自発的な活動を継続していくサポート体制・管理運用システム確立

ソーシャルキャピタル醸成

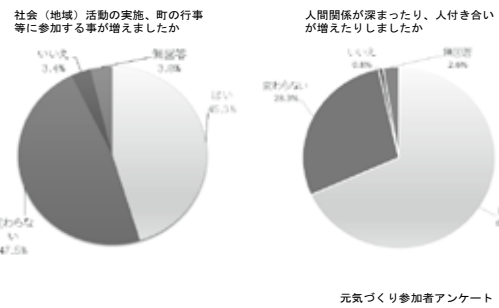
「幸せな生活の場」



『元気づくりシステム』参加の推移

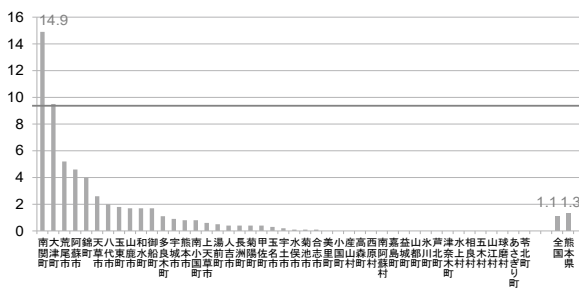


「人と人」「人と地域」と繋げる



住民主体の生活の場の状況

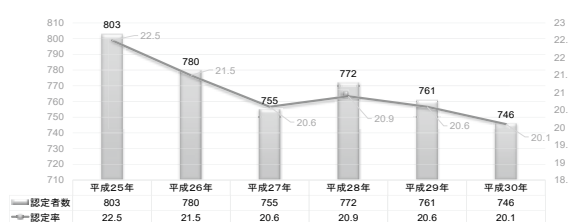
週1回以上の住民主体の通いの場参加率(平成28年度)



広がる幸せな生活の場普及率全国1位



要介護認定者数及び認定率の推移



「今後半世紀の超高齢化社会をポジティブに捉えた地域づくり」を目指して



実施主体となる行政が民間と連携し行う理由とは？

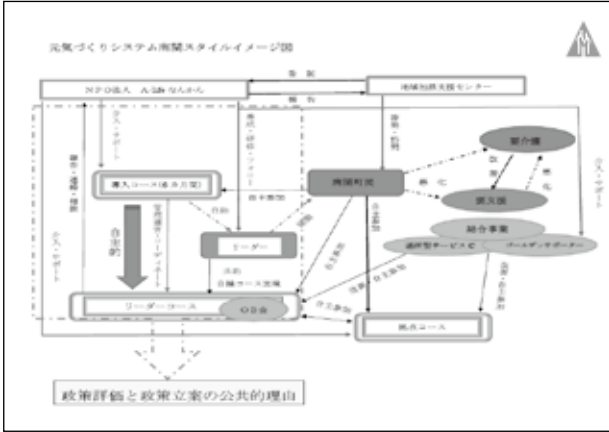
- 行政と民間が高い意識をもった協働・パートナーシップに基づき、自治体の現状・課題・施策を共有化することができる。
- より住民に近い立場である民間ならではのアプローチによって、「幸せな生活の場」づくりを多面的に推進することができる。
- 「幸せな生活の場」が持続できるよう、民間が常に最前線の知識をもってコーディネートし続けることで、行政をサポートできる。

より多世代へ・より多面的に 元気づくりシステム



特徴

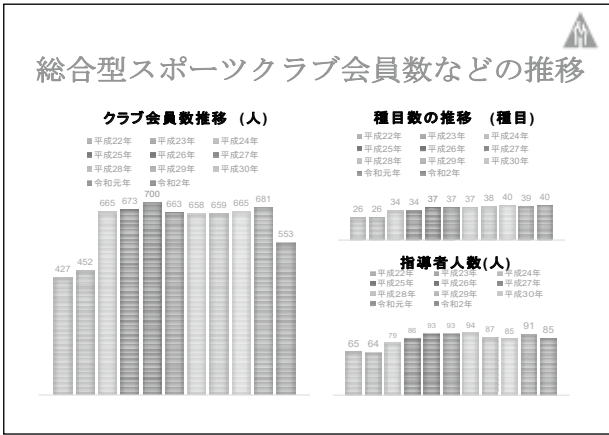
- 「元気づくりシステム」を活用
- 町健康増進事業（拠点型）
- 通所サービスC
- 事業所向け健康経営教室
- 総合型クラブでの準備運動



スポーツを多面的多層的に

◎競技志向・レクリエーション・健康づくり・社会体育・部活動...

⇒子どもに向けた取り組み



子どもに対するアプローチ(幼児期・児童期)

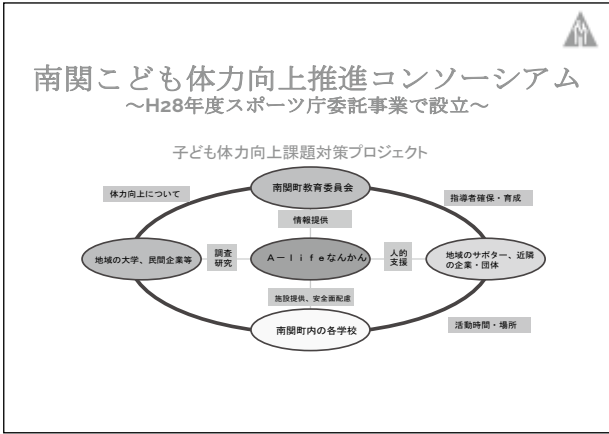
町内外保育園への指導者派遣

(年間契約 幼稚園保育園/7園)

年中・年長児対象に週一回派遣。保育士と子供に年齢に応じた多様な動きを提供。愛称：わんぱくタイム

クラブ種目としての体育教室

生涯に渡り体を動かす事ができるように、それぞれの発達段階に応じた「体づくり」「動きづくり」を重視した指導を行う。運動嫌いな子どもを少なくし、「できる」を実感。児童対象:木曜日・金曜日 幼児対象:水曜日※いずれも週1参加



学校における体育・スポーツ資質向上等推進事業

【平成30年度～令和2年度スポーツ庁委託事業】

目標

- 単元ごとの子供の達成率の向上
- できるの実感の拡大
- 総合評定がE級の減少
- 体育好きな子供の増加

目標1

- 教員の高度化(平均46歳)
- けがの発生率半減、5歳若手50%
- 子供の若手=職員若手(鉄棒・マット・跳び箱)
- まだまだ弱い子供の体力

目標2

- 豊かなスポーツライフを実現するための、資質・能力を身に付けるための学校・体育の課題は大切な時間

令和3年度は町一般予算事業として一部継続中

南関町小学校運動部活動社会体育運動指導事業

H30年度～

なんかんっ子クラブ

目的：小学校における体育授業や運動部活動は、生涯スポーツ社会の基礎を培うための役割は大きく、実践を通して、自ら進んで運動やスポーツに親しむ態度や健康・体力の保持増進を図ってきたが、平成31年度の熊本県小学校運動部活動の社会体育へ移行後のスポーツの環境が懸念される。運動・スポーツ好きな子どもの育成を推進し、移行後の「望ましい子どもたちのスポーツ環境整備」を図り生涯スポーツ社会の基礎を構築する。

◆基本プログラム

子ども達が楽しみながら体を動かすことのできるプログラムを展開しつつ「走る・跳ぶ・投げる」と言う基本的な運動能力を身に付ける。

◆主運動 ◆年間活動例

(前期)

- 6月 Tボールとビーチバレーボール
- 7月 水泳
- 9月 スラックライン
- 10月 バドミントン

(後期)

- 11月 キックベース・持久走
- 1月 サッカー(体力測定)
- 2月 卓球・縄跳び
- 3月 ボートボール・長縄跳び

コロナ禍でも前に向かって

◎コロナ禍で見えてきたもの...課題ではなくチャンスと捉えれば？

◎南関町放課後児童クラブ

⇒クラブの強みを子どもの健康増進へ


A-lifeがコロナ禍で実践したこと①

【会員向け】

- 健康チェック表を配布し 検温の習慣化(4月会員更新時)
- DMの送付
 - 町商品券を利用し入会促進
 - 町外会員への心配り

【種目活動】6月上旬～継続

- コロナ対策グッズ等の配布
- 活動対策マニュアル作成 & 対策のアドバイス



◆再開できる種目から順次配布
 ・手指除菌用ジェルやティッシュ
 ・スポーツ用具除菌用スプレー & 拭き上げ用ペーパータオル
 ・水泳指導者用プールマスク
 ・非接触体温計(一部) など...

A-lifeがコロナ禍で実践したこと②

【全町民向け】

対策啓発チラシ作成と全戸配布
 2回(地域包括支援センターと協働)
 ⇒行政の手の届かないところを補完



2020年 4月15日
 ・金融機関へ設置
 ・一部企業へ提供

2020年 8月15日
 ・熱中症予防
 ・適度な運動

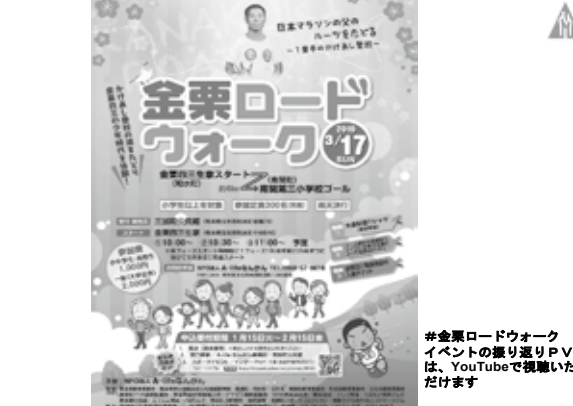
コンセプト案：D チャレンジ

・「あらたなチャレンジができる町」
 ・～南関町放課後児童クラブでの3つのチャレンジ～

- 心身の健康を大切に元気づくりチャレンジ
体力向上のために運動習慣を定着させ、健やかな成長と集中力を養います。
- 時代に即した放課後児童クラブの環境づくりにチャレンジ
 ・ICTの活用・SDGsへの取り組み・多様な価値観を認め合う取り組みを積極的に導入します。
- 家庭・学校・地域の関係性の好循環形成にチャレンジ
 ・地域人材(地域の宝)を磨き輝かせ、ボランティア・多様な働き方の導入などソフト面でコンパクトシティづくりを支えます。

健康づくりの形もニーズも
さまざま

◎イベント型はノウハウの蓄積の好機



金栗ロードウォーク 3/17

#金栗ロードウォーク イベントの振り返りPVは、YouTubeで視聴いただけます




あすほKON in 南関町

10月26日(土) 13:00 スタート



新たなチャレンジとして...

障がい者スポーツ推進プロジェクト
 しょうがいスポーツ
 リンケージくまもと

西田由実<事業コーディネーター>
 NPO法人A-lifeなんかん<代表機関>

地域の課題に対応した障害者スポーツ環境の整備

◆目的
障がい者スポーツを含めた生涯にわたって全ての人々がスポーツを行うことができる「場」を地域につくり定着させること

◆事業概要
・前年度設立したコンソーシアム「しょうがいスポーツリンケージくまもと」の基盤づくり
・地域における障がい者スポーツ実施環境のモデル構築
⇒機関団体であるNPO法人A-lifeなんかんの所在地【南関町】と【熊本県下全域】を対象として実施。

《しょうがいスポーツリンケージくまもと》
【全ての人の運動・スポーツ活動に主体的に参加しつづけるための場】

障がい者スポーツコンソーシアム「しょうがいスポーツリンケージくまもと」設立2年目

◆目的
構成団体の連携の基盤づくりを進め、障害者が身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備

◆構成団体(①②③は基幹団体)
長①熊本障がい者スポーツ指導者協議会
副②熊本県障害者スポーツ文化協会
③熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

◆事業を進める上で、構成員の特徴を活かし相談できる関係性が醸成されてきた。
●第3回会議にはオブザーバーとして県体育保健課と障がい者支援課から出席。年度当初から相談にも応じていただき県事業にも参画できた。

ボランティアの育成/ガイドランナー講習会

◆高校生向けオンライン講演会 8/17
・会場 玉名工業高等学校
・参加者 陸上部・生徒会など
・講師 熊澤典良氏 /鹿児島大学大学院理工学研究科 機械工学専攻 准教授

◆一般向け養成講習会
・県内3地域
①県北7/23(講義のみオンライン)
②県央8/29(対面)③県南1/22(対面)
・講師 柴尾源太氏 右松奈緒美氏
熊本障がい者スポーツ指導者協議会

◆目的 ガイドランナーの養成を図るとともに、障害者スポーツの理解促進を図り、いつでも誰でもがスポーツに親しむ環境を創出する。

●実際の動作を体験する講習なのでコロナ感染症の状況に左右された。
○養成講習会の形で募集するとハードルが高いと感じられる傾向にある。
●視覚障害者理解が深まること、コミュニケーション能力の研修としても団体・組織での体験は効果的あり、普及が見込める。

障がい者自らのスポーツボランティア参画

◆目的 外出の難しい障がい当事者がスポーツを支える立場としてICT機器利用しスポーツイベント等に携わるきっかけをつくる。外出の難しい障がい当事者がスポーツを支える立場としてICT機器利用しスポーツイベント等に携わるきっかけをつくる。

◆実施協力
・うすま苑/南関町
◆システム開発
株式会社オリイ研究所(東京都)

【南関町福祉スポーツ大会への参画】
・施設内からOriHimeを利用し実施
①選手宣誓
②同施設から現地出場した選手を応援

事業を円滑に進めるため地域密着の調査研究

◆目的
障がい者の身近な地域におけるスポーツ施設の利用促進と利用する上での課題を明らかにする。

◆調査研究内容
熊本県内における公共の社会体育施設(スポーツ施設)における障がい者の利用等のアンケート【県内45市町村】

◆研究者
九州ルーテル学院大学 永野典詞氏

●県内の公共体育施設のバリアフリー化と併せて、設置者の障がい当事者の施設利用促進に対する意識も調査するもの。

※参考:2020年実施
①熊本県内総合型地域SCに向けた現況とニーズ調査研究
②南関町内の生涯スポーツとしての障がい者スポーツ及びユニバーサルスポーツのニーズ調査研究
・学校対象・障がい当事者の保護者対象

まもなく最終報告書完成

①総合型地域スポーツクラブにおける障がい者参加型スポーツプログラムの創設・実施

②障がい者スポーツの理解促進に向けた広報事業

- ・総合型地域スポーツクラブ県内クラブ交流大会での実施
- ・地域での理解促進事業 児童クラブ等での体験活動

③教員に対する障がい者スポーツのノウハウの普及

- ・小中学校におけるパラリンピック競技種目等の導入・試行・実施

①総合型地域スポーツクラブにおける障がい者参加型スポーツプログラムの創設・実施

◆目的
クラブを主体とした障がい者スポーツ推進が可能となるよう、障がい者スポーツ指導者協議会等から教室の運営についてのアドバイスや指導者派遣を行い、地域に総合型SCを基盤とした協働のきっかけをつくる

◆事業内容(対象:4地区8クラブ)
・新規希望クラブへのヒアリング シートにて実施
⇒オンラインでの打ち合わせ・勉強会
・昨年からの継続クラブ6クラブ
⇒クラブの地域特性に沿った体験講習会実施

●知らないこと知るべきこと深めること
●障がい者スポーツをクラブの特色とするため、連携方法の検討。

継続のクラブには今後も地域での推進を担う立場「地域コーディネータ」として地元団体との調整や活動報告作成を依頼

②障がい者スポーツの理解促進に向けた広報事業

◆実施方法
各事業の特性に応じて、障がい者スポーツ指導者協議会から指導者を派遣。

◆事業内容
①熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「県内クラブ交流大会」でのフライングデイスク大会実施【11月】
⇒メイン会場(豪雨災害被災地域)・サテライト会場(南関町)・分散日開催(4会場)で統一種目として実施。1つの会場に障がい者当事者も参加された。
②児童クラブ等での障がい者スポーツ体験活動【1か所2時間ずつ/8~11月】
⇒南関町・和水町の4か所の児童クラブ長洲町4小学校の放課後子ども教室


●障がい者スポーツはクラブでも気軽に取り組めるもの、障がいの有無によらず一緒に楽しめるものであることが理解された。
●パラリンピック前後で子ども達の興味関心を経験として結ぶことができた。

地域をつなぐ 指導者をつなぐ 2021

③教員に対する障がい者スポーツのノウハウの普及

◆目的
南関町を中心とする小中学校特別支援学級授業においてパラリンピック競技種目等を試行し、教員に障がい者スポーツのノウハウを普及する

◆事業内容
南関町はコンソーシアム構成員を核として、和水町は教育委員会を通じて希望する学校で実施。
①小中学校での種目体験授業【10・11月】
⇒南関町(小学校2・中学校1) 和水町(小学校1)
※実施種目 ボッチャ・風船バレーボール・フットベースボール・フライングディスク
②担当教員等を対象とした研修会(8月)
⇒和水町教育委員会主催研修会として実施。
※当初思いすぎた体験の予定が、コロナ感染症の影響で講習のみオンライン開催。



◆事前事後学習を自主的に実施し体系的に取り組まれた学校が多かった
＜体験後の教員の感想＞
①ルール等から体育授業に生かせるポイントを多く学んだ。
②体育は交流授業で行うことが多く、支援学級の児童生徒だけの場合のびのびとした様子や新たな一面が発見できた。

障がい者スポーツの理解促進に向けた広報事業

【SNSの活用】

障がい者スポーツコンソーシアム しょうがいスポーツ リンケージくまもと

公式Facebookは
右QRコードから




技術をつなぐ 2021


IT技術を取り入れスポーツ参画機会の創出

～新しい生活様式を踏まえたスポーツ参画～

◆目的
障がい者福祉施設等内において、リハビリを目的としたスポーツを介したスポーツ体験を試験的に導入し、外出・移動を伴わず障がい当事者に新しい形のスポーツ参加機会を設ける。加えて、その発展として施設対抗イベントを開催。

◆実施協力先2施設
◆陽光学園(南関町)・愛隣館(山鹿市)
⇒各8回体験 ※最終回は対抗イベント
◆システム開発と運営:
株式会社ハッピーブレイン(熊本県)

◆対抗イベント【10/23】～県民スポーツの日～
【総合型アダプテッドスポーツイベント】
⇒2施設とメイン会場をオンラインで繋ぎ、障がい者と小学生が対決!



◆障がい者らの余暇支援を目的に理学療法士・作業療法士が起業した同社の技術を採用。障がい者個々の残された機能を最大限に活かす装置をカスタマイズしリハビリの効果が高い。
◆体験者の施設側からは生活意欲が向上したと感想あり。

事業の循環 2021

イベントによる障がい者スポーツの理解促進


しょうがいスポーツシンポジウム

◆目的 障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ関係者の意見交換の場を設け、インターネットで公開することで全国に向けて障がい者スポーツの可能性を発信する。

◆日時 2022年1月23日(日) 13-15時
◆会場 熊本城ホール 会議室
(会場参加可のハイブリッド開催)

◆スポーツ庁障がい者スポーツ政策説明
◆シンポジウム登壇者
◆パラリンピアン浦田理恵氏(ゴールボール)
◆熊本障がい者スポーツ指導者協議会会長
◆NPO法人北九州スポーツクラブACE
◆eスポーツ支援事業者 樹ハッピーブレイン
◆久留米大学 行貫鉄平氏(フアンリテータ)

◆本シンポジウムはYouTubeで公開中。
右QRコード
A-lifeなんかん
YouTubeチャンネルから



◆2つのテーマに沿って進行
①障がい者スポーツ実施における障壁や課題～過去から現在
②地域スポーツとしての障害者スポーツの展開～将来に向けて

◆それぞれの特性を活かし融合・共存する「こぢりまぜになる」ことで発展が期待できることを確認した。

事業の循環

事業間の連結と組織間の共創が重要

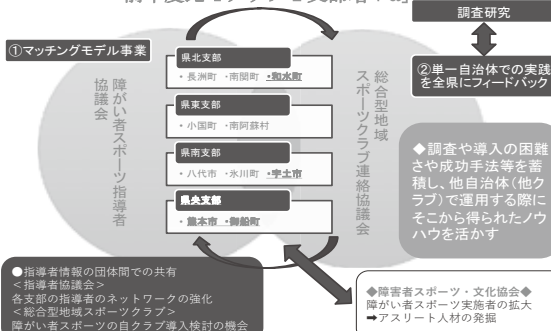
「前年度比4クラブ1支部増+α」

◆調査研究
◆単一自治体での実践を全県にフィードバック

◆調査や導入の困難さや成功手法等を蓄積し、他自治体(他クラブ)で運用する際にそこから得られたノウハウを活かす

◆指導者情報の団体間での共有
◆指導者協議会
◆各支部の指導者のネットワークの強化
◆総合型地域スポーツクラブ
◆障がい者スポーツの自クラブ導入検討の機会

◆障害者スポーツ・文化協会
◆障がい者スポーツ実施者の拡大
◆アスリート人材の発掘



総合型もDX?


仕事に人がつくにチャレンジ

できるところから業務改善・事業転換
オンライン授業・クラウドサービス・キャッシュレス・ネットバンキングなど・・・

食わず嫌いは無責任

◆SNS系
LINE ←
Instagram ←
Facebook ←
Twitter
Clubhouse*
TikTok

◆資金確保
ふるさと納税 ← ← ←
クラウドファンディング
クラブトークン
協賛
寄付

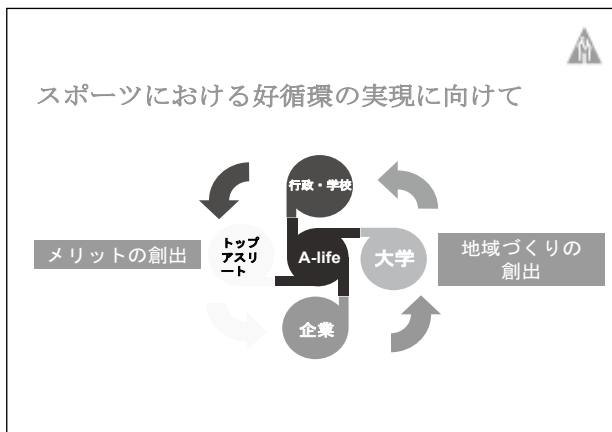


ふるさと納税にNPO支援枠

応援寄付金

- NPO等支援分
- ふるさとくまもとづくり応援分
- くまモン応援分
- 夢教育応援分
- 新型コロナウイルス感染症対策分

A-lifeなんかん・・・2021.8月登録(現在登録30団体)
◆寄付金の使途
①地域の子どもの健やかな体づくりを支えるスポーツ環境の整備(共用スポーツ用具の購入、練習着製作費など) ②障がい者・障がい児が自分の住む地域でスポーツに親しめる環境の整備(共用スポーツ用具の購入、専門講師の招聘費用、地域指導者の研修費用など)



大学機関との連携について

- ◆長崎国際大学人間社会学部国際観光学科スポーツツーリズムコース 宮良俊行准教授
 - 2013年 インターンシップ受け入れ開始・講義・総合型現場体験など
 - 2019年 スポーツイベント開催時にインターンシップで受け入れ
 - 2021年 卒業生を正社員としてクラブで雇用
- ◆九州看護福祉大学鍼灸スポーツ学科コミュニティスポーツコース 平崎和雄准教授ほか
 - 2015年～町主催のマラソン大会でのケアブースの協働運営（学生サークル事業）
 - 2020年 学生による総合型地域スポーツクラブ種目および、小学生向け社会体育移行事業での指導スタッフ協力 2021年+児童クラブでの支援員補助としてのスタッフ協力
- ◆久留米大学人間健康学部スポーツ医科学科 行實敏平准教授
 - 2019年 合同ゼミ合宿の現地コーディネーターとSCについての講座への講師派遣
「スポーツ価値共創Lab」研究会・久留米大学・立命館大学・静岡大学・新潟医療福祉大学
- ◆熊本大学教育学部 2017年卒業論文のための調査協力
- ◆その他、日本女子体育大学、熊本学園大学などのスポーツ庁事業の協働実績

クラブの関係人口増加へ
自分の妄想をクラブで実現！
～巻き込み巻き込まれ～

変わらない良さは
何もせずには保てない

広がる未来
つながる地域

エイライフなんかん

A-life なんかんHP
http://a-life-npo.com/
E-mail
y.nishida@a-life-npo.com